厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（総括）研究報告書

iTesting チャネルによる HIV 検査体制の構築と確立のための研究

研究代表者　今橋　真弓

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター

臨床研究センター感染・免疫研究部　感染症研究室長

研究要旨

本研究は行政と協力した HIV 検査実施を通し、受検者および検査を行う医療従事者に導入・継続可能な検査体制を構築することを目的としている。令和 5 年度は分子疫学調査からは、コロナ禍以前に伝播していた複数の系統がコロナ禍中は全く検出されず、2022 年に再度検出されていることが観察され、コロナ禍における検査の遅れによる影響が示唆された。検査自体は iTesting@Nagoya および iTesting@Aichi&NMC で合計 1658 件の検査を提供することができた。HIV 陽性率はそれぞれ 0.75%、1.1%であった。陽性未確認率は 0%であった。キャンセル率減少および外国籍受検者数増加を目指し、予約システムの工夫が必要であることが示唆された。検査ごとに行うアンケート調査では生涯初受検者に限定すると MSM は出会い系アプリ広告、non-MSM は名古屋市 HIV 検査情報サイトや地下鉄広告で iTesting@Nagoya を知ることが明らかとなった。アンケート回答率の低下が認められたため、今後回答率を上げる工夫も必要である。アウトリーチ活動では合計 6 言語（英語・ポルトガル語・中国語・インドネシア語・スペイン語・ベトナム語）に対応した。iTesting についての説明と HIV 感染・エイズ発症予防に関する啓発動画 2 本を作成、 6 言語の翻訳字幕をつけて公開した。また検査広報カードを愛知県内の自治体や国際交流協会に配布し、啓発活動を展開することができた。iTesting@Clinic の体制構築に向けて、医療機関にアンケート調査を行った。検査希望者からの質問・針刺し事例発生時の対応について当院でのバックアップ体制を検査体制と同時に構築していく必要性が示唆された。

研究分担者

金子典代　名古屋市立大学大学院看護学研究科　国際保健看護学　教授

椎野禎一郎　国立国際医療研究センター臨床研究センター　データサイエンス部長

野口靖之　愛知医科大学産婦人科　准教授

吉田理加　愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻　准教授

A. 研究目的

2021 年 3 月に HIV スクリーニング検査の結果告知方法について変更の通知が出され、スクリーニング検査の結果告知を外部委託することができるようになった。コロナ禍における保健所業務の急増のため、保健所での HIV 検査が減少した。以上より、今後公衆衛生学的な緊急事態が発生しても HIV 検査提供が維持でき、アクセスしやすい多彩な HIV 検査体制の構築と評価が求められている。本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進めるための基礎資料（マニュアル）を作成することを目的とする。

B. 研究方法

研究対象地域は本研究の取り組みの結果（陽性受検者の受診）が名古屋医療センターで把握できる愛知県・名古屋市とする。

1)分子疫学調査：研究分担者　椎野禎一郎

2022 年に東海地方の医療機関に来院した新規 HIV 感染者から採取されたウイルスの pol 領域(HXB2:2253-3260)の塩基配列 336 症例分を、AMED 薬剤耐性班の「国内伝播クラスタの検索プログラム（SPHNCS）」によって伝播クラスタ（dTC）の同定と解析を行い、東海地方における dTC でアウトブレイク・検査の遅延・他地域からの浸淫等が起きているかどうかを

調査した。

2)検査・アンケートの実施：研究分担者　金子典代・研究代表者　今橋真弓

本研究では、2022 年から 2023 年にかけて全 6 回にわたり実施してきた受検者への質問紙調査データ 5 回分初回受検者のみのデータ（N=589）を解析した。ゲイバイセクシュアル男性群（以下 GBM とする）と non-GBM の 2 群を設定し群間比較を行った。さらに、生涯で HIV 検査を受けたことがあるもの、ないものの 2 群に分けたうえで群間比較を行った。ゲイバイセクシュアル男性と GBM 以外の non-GBM の群分けは、GBM は自認するセクシュアリティをゲイ、バイセクシュアルと自認するものとし、non-GBM はそれ以外の男性とした。これまでの HIV 検査経験別の比較は、iTesting 受検以前にも HIV 検査を受けたことがあるものと、iTesting が生涯初めての HIV 検査であった 2 群に分けて実施した。

3)アウトリーチ活動：研究分担者　吉田理加

HIV 検査の重要性を説明した啓発資材の作成および設置、検査の広報、検査を評価するためのアンケートの作成（多言語対応）・解析、検査施行可能な場の模索、各コミュニティでの啓発活動、多言語対応した iTesting ウェブサイトの作成を行った。

4)iTesting@Clinic 体制構築にむけた取り組み：研究分担者　野口靖之

iTesting@Clinic 運用に向けた事前調査として総合病院（土曜日営業）、総合病院（祝日営業あり）、婦人科プライベートクリニック（夕診、土曜日営業）、メンタルプライベートクリニック（夕診、土曜日営業）にアンケートを依頼し、対面または ZOOM を用いて調査（下記内容）を行った。

- ✓ 採血前の説明は、WEB 媒体で十分か？
- ✓ 検査前に提供する説明文が他に必要と思うか？
- ✓ iTesting@Clinic に関する質問に対応して希望者からの質問に対応できるか？
- ✓ 性感染症ハイリスク症例が来院された時、iTesting@Clinic に関する情報提供をして頂けるか？
- ✓ 貴施設で「梅毒」の治療経験はあるか？
- ✓ iTesting@Clinic を貴施設で実施頂く際に、実施経費の支給を希望されるか？
- ✓ 平日午前診以外に、土曜日午前診、平日夕診においても iTesting@Clinic を受け付け可能か？

（倫理面への配慮）

検査は予約からすべて匿名検査で行っている。またアンケート調査も匿名検査で行い、名古屋市立大学の倫理審査を受審の上実施した。

C. 研究結果

＜分子疫学調査：椎野＞

2022 年の新規感染者は、サブタイプ B の dTC 所属例が 68％に対して CRF01_AE の dTC 所属例は 4 ％にとどまり、過去数年に比べて CRF01_AE の検出数が減っていた。過去 3 年、COVID-19 パンデミックの影響で検査数が減少し、東海地方からの報告数も例年の 2/3 に減少しているなか、サブタイプ B の孤立例（singletons）は 13％程度を維持しており、HIV の流行や検査動機に質的な変化が起きている可能性がある。東海地方では、B-TC2 および 3 のサブクラスタで他地域を含めたアウトブレイクが観察されるとともに、63、98 の検出例が多かった。B-TC98 の時間系統樹解析によって、コロナ禍以前に伝播していた複数の系統がコロナ禍中は全く検出されす、2022 年に再度検出されていることが観察され、コロナ禍における検査の遅れによる影響が示唆された。

＜検査の実施：金子・今橋＞

iTesting@Nagoya は名古屋市と協力し、本年度は 6/25・9/3・12/10 の計 3 回行い、合計 934 人の受検があった。3 回合計の各検査陽性率は HIV は 0.75%、TP 抗体は 11.0%、RPR は 3.7%、HBs 抗原は 0.32%、HCV 抗体は 0.21%であった。陽性未確認率は各回とも 0%であった。完全予約制の検査ではあるが、当日キャンセル率が 6/25・9/3・12/10 と 10%・13%・9.8%であった。

iTesting@Aichi&NMC は愛知県と協力し、724 件の検査を行った。各検査陽性率は HIV は

1.1%、RPR は 3.5%、TP 抗体は 5.8%であった。検査結果を確認していないのは 0 名であった。

＜受検者アンケート解析：金子＞

初めて iTesting を受検したものは、名古屋市の HIV 検査情報サイト(34.7%)、出会い系アプリ広告(22.5%)、地下鉄広告(15.6%)により、本検査会を知ったと回答している。また生涯初めての検査であったものに限定すると、MSM は出会い系アプリ広告にて、また non-MSM は名古屋市の HIV 検査情報サイトや地下鉄広告で本検査会を知っていることが明らかとなった。また MSM（N=329）と non-MSM(N=170)でカイ二乗検定にて属性を比較すると、MSM の方が年齢が若く、名古屋市以外の地域からの受検者割合が高く、生涯の HIV 検査経験が高く、様々な種類の検査機会の利用経験があり、梅毒、クラミジアの既往が有意に高いことが示された

＜アウトリーチ活動:吉田＞

アウトリーチグループが目的に掲げていた活動のうち、多言語ウェブサイトと HIV 検査の重要性を説明した多言語スライドの作成では、昨年度の 4 言語に加えて、中国語とインドネシア語を追加して 6 言語に対応した。さらに、啓発動画の作成では iTesting についての説明とＨＩＶ感染とエイズ発症予防に関する啓発動画２本を今橋真弓医師が作成、それを 6 言語の翻訳字幕をつけて公開した。また、iTesting@Nagoya のウェブページにつながる広報カードを愛知県内の自治体や国際交流協会に日本語と上記 6 言語で配布し、啓発活動を展開することができた。

＜クリニックでの検査体制構築：野口＞

検査実施前の説明や説明については、3 施設ともに WEB に作成されている iTesting の説明文程度であれば可能であるとの意見を得た。希望者からの質問について、エイズ拠点病院でない総合大雄会病院、きそがわ不破クリニックは、医療センターでの一括対応を希望された。また、実施施設への経費の支給については、特に外来診療を主体としたレディースクリニックでは、初診料が得られないため採血量、検体管理料金を含めて 10000 円程度は必要との意見を得た。土曜日午前診、平日夕診での実施については、総合大雄会病院、愛知医科大学病院では、実施不可であったが、きそがわ不破クリニック検体回収ができれば可能とのことであった。

D. 考察

＜分子疫学調査：椎野＞

今回 B-TC98 の観察からパンデミックが検査に及ぼす影響も示唆された。拡大が観察されたクラスタ報告例が、ある年には著しく減少した場合、特定の層またはグループにおいて検査動機の変化が生じている可能性があるが、SPHNCS によるモニタリングは、こうした事例をいち早く検出して検査現場に還元できる点で有用と考えられる。他地域で流行している系統の浸淫や、東海地方で古くから維持された dTC を含め、SPHNCS の解析情報を同研究班の臨床・社会研究者に還元し、GIS 解析や社会学的調査との関連性を調査できれば、行政の検査のターゲッティングに十分に寄与できるだろう。

＜検査の実施：金子・今橋＞

iTesting@Nagoya の予約期間を 1 か月から 2 週間に減らすことでキャンセル率が 10%前後に減少した。おそらく 1 か月前の予約開始時は予定が定まっていなくても「とりあえず予約しておく」受検者が多いが、2 週間前からの予約だと「ある程度予定が決まった上で予約」する受検者が多かったためと考える。今後もできるだけ多くの受検希望者に検査機会が行き渡るよう、また外国籍受検者の予約がスムーズに行えるよう、予約の仕組みについては工夫が必要である。

＜受検者アンケート解析：金子＞

MSM と non MSM の受検者背景は異なり、MSM をターゲットにする場合は、ゲイ向けアプリ広告が、生涯初の non-MSM の誘導には地下鉄広告や行政 WEB が有効であることが示された。各回の各種検査項目の陽性割合、受検者層、広告にかかるコストも勘案しながら、広報戦略を立てることが求められる。

＜アウトリーチ活動：吉田＞
多言語コミュニティへのアウトリーチに取り組む際、翻訳は最初の一歩すぎず、該当言語コミュニティに影響力を持つコミュニティの成員の協力を経ることにより、発信メッセージの信頼性が高まり、拡散効果が出るようである。但し、HIV などの性感染症というテーマが各コミュニティにおいてタブー視されている状況があり、協力者にネガティブな影響が出ないように配慮も必要である。
＜クリニックでの検査体制：野口＞
今回の調査により、アンケート調査で被験者より要望のあった土曜日、平日 5 時以降の実施は、営業を行っていない総合病院では、困難と思われた。一方で、クリニックは、採血検体の遠心分離等の検体処理ができず、検体一時保管が必要な提携検査センターと医療センターの契約が必要と考えられた。さらに、きそがわ不破クリニックからは、スタッフの安全管理面において針刺し事故が発生した場合に、匿名検査では針刺し事故発生時の対応ができないことに不安を感じるとの意見があり、iTesting@Clinic の実施に向けて解決が必要な課題と考えられた。

E. 結論

2022 年に東海地方の医療機関に来院した新規 HIV 感染者から pol 領域の塩基配列を採取し、SPHNCS を使って dTC の同定を行った。コロナ禍以前に東海地方で伝播をしていた系統が、コロナ禍中は検出できず 2022 年になって多数検出された dTC があり、一部のキーポピュレーションにおける検査の遅れが示唆された。iTesting だけで年間 1658 件の検査を提供できた。iTesting@Nagoya 計 6 回分の受検者アンケートが蓄積され、iTesting の利用経験別、MSM と non MSM 別の比較が可能となった。生涯初の HIV 検査経験者の特性や検査会を知った広報、MSM、non-MSM の受検者の背景比較を行った。iTesting のホームページの多言語化をより推進すると同時に、多言語広報カードの配布、多言語啓発動画の作成などを行った。そして、今回の調査で iTesting@Clinic の導入について、具体的な問題点が明らかになった。これらの対応策が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

＜今橋真弓＞

1)Masuda, M., Ikushima, Y., Ishimaru, T., Imahashi, M., Takahashi, H., & Yokomaku, Y. (2023). [Current Issues of Laws Concerning HIV/AIDS Control in the Workplace]. Sangyo EiseigakuZasshi.https://doi.org/10.1539/sangyoeisei.2023-007-W
2)Mizuki, K., Ishimaru, T., Imahashi, M., Ikushima, Y., Takahashi, H., Masuda, M., & Yokomaku, Y. (2023). Workplace factors associated with willingness to undergo human immunodeficiency virus testing during workplace health checkups. Environ Health Prev Med, 28, 52. https://doi.org/10.1265/ehpm.23-00054
3)Nakata, Y., Ode, H., Kubota, M., Kasahara, T., Matsuoka, K., Sugimoto, A., Imahashi, M., Yokomaku, Y., & Iwatani, Y. (2023). Cellular APOBEC3A deaminase drives mutations in the SARS-CoV-2 genome. Nucleic Acids Res, 51(2), 783-795. https://doi.org/10.1093/nar/gkac1238
4)Otani, M., Shiino, T., Hachiya, A., Gatanaga, H., Watanabe, D., Minami, R., Nishizawa, M., Teshima, T., Yoshida, S., Ito, T., Hayashida, T., Koga, M., Nagashima, M., Sadamasu, K., Kondo, M., Kato, S., Uno, S., Taniguchi, T., Igari, H., . . . Kikuchi, T. (2023). Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J Int AIDS Soc, 26(5), e26086. https://doi.org/10.1002/jia2.26086
5)Uno, S., Gatanaga, H., Hayashida, T., Imahashi, M.,. Kikuchi, T. (2023). Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase

polymorphism: a multicentre retrospective study. J AntimicrobChemother.https://doi.org/10.1093/jac/dkad319

＜椎野禎一郎＞

1)Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, Minami R, Nishizawa M, Teshima T, Yoshida S, Ito T, Hayashida T, Koga M, Nagashima M, Sadamasu K, Kondo M, Kato S, Uno S, Taniguchi T, Igari H, Samukawa S, Nakajima H, Yoshino Y, Horiba M, Moro H, Watanabe T, Imahashi M, Yokomaku Y, Mori H, Fujii T, Takada K, Nakamura A, Nakamura H, Tateyama M, Matsushita S, Yoshimura K, Sugiura W, Matano T, Kikuchi T; Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J Int AIDS Soc. 2023 May;26(5):e26086. doi: 10.1002/jia2.26086. PMID: 37221951; PMCID: PMC10206413.

2)Minh TTT, Hikichi Y, Miki S, Imanari Y, Kusagawa S, Okazaki M, Thu TDT, Shiino T, Matsuoka S, Yamamoto H, Ohashi J, Hall WW, Matano T, Thi LAN, Kawana-Tachikawa A. Impaired protective role of HLA-B*57:01/58:01 in HIV-1 CRF01_AE infection: a cohort study in Vietnam. Int J Infect Dis. 2022 Dec 20;128:20-31. doi: 10.1016/j.ijid.2022.12.016. Epub ahead of print. PMID: 36549550.

3)Nii-Trebi NI, Matsuoka S, Kawana-Tachikawa A, Bonney EY, Abana CZ, Ofori SB, Mizutani T, Ishizaka A, Shiino T, Ohashi J, Naruse TK, Kimura A, Kiyono H, Ishikawa K, Ampofo WK, Matano T. Super high-resolution single-molecule sequence-based typing of HLA class I alleles in HIV-1 infected individuals in Ghana. PLoS One. 2022 Jun 2;17(6):e0269390. doi: 10.1371/journal.pone.0269390. eCollection 2022.

＜金子典代＞

1)高久道子，金子典代，Myagmardorj Dorjgotov, Naympurev Garjanjamts，Erdenetuya Gombo，塩野徳史，市川誠一: モンゴルの Men who have sex with men（MSM）における HIV に対するスティグマ低減を目指した啓発プログラムへの参加と HIV 検査行動との関連. 日本エイズ学会誌、受理済み, 2023

2)金子典代，健山正男，和田秀穂，高久陽介，宮城京子：HIV 治療通院中の MSM における急性感染期の医療機関の受診、受診先での HIV 検査の受検、性感染症の既往. 日本性感染症学会誌，受理済み, 2023

＜野口靖之＞

1)野口靖之．【産婦人科医のための感染症最新レクチャー】生殖医療　性器クラミジア・淋菌感染症と卵管不妊．臨床婦人科産科. 2024;78(1):34-8.

2)野口靖之，嶋津 光真．【ポストコロナ時代の感染症診療】(第 II 章)感染症診療各論　性行為関連感染症性器クラミジア感染症．診断と治療. 2023;111(Suppl.):236-9.

3)野口靖之，嶋津 光真．【産婦人科領域の検査法-先制医療に向けて-】女性医学　女性のヘルスケア向上のための感染症スクリーニング検査．産科と婦人科. 2023;90(7):755-9.

4)野口靖之，嶋津 光真．【妊娠に影響する感染症の最新知識】クラミジア感染症．産婦人科の実際. 2023;72(7):683-6.

5)野口靖之，西川 有紀子．【ここまでわかった産婦人科の病態生理】(第 4 章)女性医学　性器クラミジア感染症．産科と婦人科. 2023;90(Suppl.):349-51.

6)野口靖之．【抗真菌薬選択がよくわかる表在性皮膚真菌症・深在性真菌症の薬物治療】表在性皮膚真菌症の薬物治療　外陰部カンジダ症．薬事. 2023;65(8):1584-6.

7)野口靖之．【忍びよる性感染症の脅威とその対策】性感染症　診断・治療　性器クラミジア感染症．臨牀と研究. 2023;100(4):437-41.

＜吉田理加＞

1)Yoshida, R. & Itoigawa, M. (2023). Nuevos retos y responsabilidades de una universidad en los

estudios de TISP en Japón. In Valero, C. (Ed.). E-Book TISP en Transición / PSIT in Transition. Publicaciones de la Universidad. DOI: https://doi.org/10.37536/VISG5657

実践報告
1)吉田理加・小池康弘・糸魚川美樹(印刷中).「UNHCR 難民映画祭パートナーズ上映」と動画講演におけるコミュニティ通訳実習実施報告」『共生の文化研究』第 18 号.
2)吉田理加・小池康弘・糸魚川美樹(印刷中).「コミュニティ通訳学と多言語防災の取り組み」『共生の文化研究』第 18 号.

2. 学会発表

＜今橋真弓＞
1)今橋真弓 「HIV検査体制にみる「困った」と「やってみる」の話」第97回日本感染症学会総会・学術講演会・第71回日本化学療法学会学術集会　合同学会　シンポジウム「HIV感染症における現場の課題と解決へのアプローチ」2023年4月28日（横浜）
2)今橋真弓「めざせ！「三方良し」のHIV検査体制」令和５年度第１回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会　2023年7月21日（香川）
3)今橋真弓「HIV診療を通してみる在日外国人の医療」 第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会シンポジウム7【在日外国人の感染症を考える】2023年11月10日（富山）
4)今橋真弓「iTesting を用いたHIV 検査から見えてきた「壁」」第37回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム5（社・S）2023年12月4日（京都）

＜椎野禎一郎＞
海外
1)Machiko Otani, Mayumi Imahashi, Rumi Minami, Atsuko Hachiya, Masakazu Matsuda, Machiko Nishizawa, Teiichiro Shiino, Tetsuro Matano, Yoshiyuki Yokomaku, Yoshimasa Iwatani, Tadashi Kikuchi, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. A cluster of phylogenetically close strains to the highly virulent variant of HIV-1 subtype B circulating in the Netherlands was detected in Japan. IAS2023, 23 Jul. – 26 Jul. Brisbane, Australia
2)Teiichiro Shiino, Machiko Otani, Tadashi Kikuchi, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Recent HIV outbreaks in Japan originated from late presenters: Implementation of molecular transmission network analysis. IAS2023, 23 Jul. – 26 Jul. Brisbane, Australia
3)Teiichiro Shiino, Machiko Otani, Tadashi Kikuchi, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, and Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Signs of late HIV diagnosis and outbreaks in transmission networks in Japan. CROI2023, 19 Feb. -23 Feb. 2023. Seattle, USA.
4)Mayumi Imahashi, Teiichiro Shiino, Noriyo Kaneko, Yoshiyuki Yokomaku, and Chieko Hashiba. Geographic and risk variation in transmission clusters of HIV test recipients in Nagoya, Japan. The 24th International AIDS Conference. 29 July-2 Augst 2022. Montreal, Canada, and virtually
5)Machiko Otani, ○Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa1, Atsuko Hachiya, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Tetsuro Matano and Tadashi Kikuch, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. The impact of HIV-1 subtypes and transmission clustering on late diagnosis: the first large-scale study in Japan. The 24th International AIDS Conference. 29 July-2 Augst 2022. Montreal, Canada, and virtually
6)Teiichiro Shiino, Machiko Otani, Tadashi Kikuchi, Kazuhisa Yoshimura, and Wataru Sugiura, Japanese HIV Drug Resistance Surveillance Network. Viral Sequence-based Near Real-time Cluster Monitoring of HIV-1 Reveals the Impact of the COVID-19 Pandemic on HIV testing in Japan. The 24th International AIDS Conference. 29 July-2 Augst 2022. Montreal,

Canada, and virtually

国内
1)椎野禎一郎、大谷眞智子、中村麻子、南留美、今橋真弓、吉村和久、杉浦亙、菊地正．国内HIV-1 伝播クラスタ動向（SPHNCS 分析）年報―2022 年．第 37 回日本エイズ学会学術集会総会．2023 年 12 月．京都
2)河上麻美代、北村有里恵、伊藤仁、黒木絢士郎、小泉美優、藤原卓士、椎野禎一郎、菊地正、長島真美、貞升健志、吉村和久．東京都内公的検査機関でのHIV検査におけるHIV-1陽性例を用いた分子生物学的解析．第37回日本エイズ学会学術集会総会．2023年12月．京都
3)椎野禎一郎、「エイズ予防指針」新時代の課題　第２部：エイズ検査体制のこれまでとこれから．（パネリスト）．第37回日本エイズ学会学術集会総会．2023年12月．京都
4)大谷眞智子、今橋真弓、南留美、蜂谷敦子、松田昌和、西澤雅子、椎野禎一郎、俣野哲朗、横幕能行、岩谷靖雅、菊地正，オランダで流行するHIV-1 virulent subtype B の国内近縁株に関する報告．第36回日本エイズ学会学術集会総会．2022年11月．浜松
5)大谷眞智子、○椎野禎一郎、西澤雅子、林田庸総、潟永博之、豊嶋崇徳、渡邊大、今橋真弓、俣野哲朗、菊地正，国内HIV-1 CRF07_BC の流行動向に関する研究．第36回日本エイズ学会学術集会総会．2022年11月．浜松
6)椎野禎一郎、大谷眞智子、菊地正、吉村和久、杉浦亙．国内HIV-1 伝播クラスタ動向（SPHNCS 分析）年報―2021 年．第36回日本エイズ学会学術集会総会．2022年11月．浜松
7)羽柴知恵子、今橋真弓、金子典代、椎野禎一郎、横幕能行．　診療情報及び看護記録に基づく HIV 感染者/エイズ患者の動向と疾病知識の普及啓発方法の検討．第 36 回日本エイズ学会学術集会総会．2022 年 11 月．浜松

＜金子典代＞
国内
1)金子典代：1st95 達成に必要な施策．Fast-Track Cities Workshop Japan 2023，東京，2023
2)金子典代、岩橋恒太：デジタルディスペンサーを活用したゲイバイセクシュアル男性対象の HIV・梅毒検査キット配布プログラムの実施．第 31 回日本健康教育学会学術大会，東京，2023
3)岩橋恒太、金子典代、本間隆之：本邦における MSM を対象とした Mpox 流行時における知識・関心・行動の検討：全国 MSM 対象のオンライン横断調査．第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023
4)金子典代、国見亮佑、太田貴、星野慎二、岩橋恒太、石田敏彦、塩野徳史、町登志雄、新山賢、舩石翔馬、玉城祐貴：郵送検査利用者アンケートから見た利用者属性、自己採血の困難感について－対面配布と WEB 配布の受け取り 2 群間の比較－．第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、京都、2023

＜野口靖之＞
1)当院の周産期症例におけるグラム陰性桿菌の薬剤耐性に対する検討　第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会（東京）2023.5.12
2)性感染症　第 39 回日本産婦人科感染症学会学術集会（長崎）2023.5.21
3)性感染症診断・治療ガイドライン　性器クラミジア感染症　日本性感染症学会 第 36 回学術大会（東京）2023.12.3

＜吉田理加＞
1)武田珂代子・辛島デイヴィッド・宮田玲・山田優・吉田理加　日本におけるトランスレーション・ポリシー研究事始め　日本通訳翻訳学会第 33 回年次大会（オンライン）　2022 年 9 月
2)松下佳世・古川典代・吉田理加　多言語通訳コーパスを活用した日英・日中・日西の訳出比較に基づく初期的考察　日本通訳翻訳学会第 33 回年次大会（オンライン）　2022 年 9 月
3)飯田奈美子・斎藤美野・坪井睦子・蓮池通子・水野真木子・吉田理加　通訳翻訳研究におけるデータセッションの有効性の検討　日

本通訳翻訳学会第 33 回年次大会（オンライン）2022 年 9 月

＜吉田理加＞

国外

1)Yoshida, R. Multilingual communication and disaster preparedness/responses in Japan. Nov. 16, 2023. *Roundtable on multilingual approaches to disaster preparedness* (RMIT University).

2)Yoshida, R. Trust in community interpreting in Japan: Towards a greater role for language professionals. Nov. 16, 2023. *Global Multicultural Communication Lecture Series* (RMIT University).

3)Yoshida, R., How "trust" is constructed and expressed in the narratives regarding the role of community interpreters. In the Panel *How Japanese central and local governments view the needs for interpreting services and the role of interpreters in their administrative undertakings* (by Takeda, K., Marszalenko, J., Inagaki, H., & Yoshida, R.) Aug. 18, 2023, European Association of Japanese Studies 2023 (Online).

国内

1)武田珂代子・辛島デイヴィッド・宮田玲・嶋津美和子・吉田理加　「日本におけるトランスレーションポリシー」プロジェクトの活動報告　日本通訳翻訳学会第 24 回年次大会（関西大学）　2023 年 9 月 2 日

2)吉田理加・今橋真弓・金子典代　無料匿名性感染症検査会 iTesting@Nagoya における多言語アウトリーチ実践報告：「プリエディット（前編集）の工程に着目して」　日本通訳翻訳学会第 24 回年次大会（関西大学）　2023 年 9 月 3 日

3)飯田奈美子・斎藤美野・坪井睦子・蓮池通子・水野真木子・吉田理加　「ドキュメンタリー作品『ナディアの誓い』 の通訳翻訳学的分析：データセッションでの考察 から」　日本通訳翻訳学会第 24 回年次大会（関西大学）2023 年 9 月 2 日

4)Yoshida, R. Cómo traducen los intérpretes los enunciados discriminatorios: Análisis narrativo de los estrategias pragmáticas de interpretación. May 28, 2023, CANELA 35th Annual Congress (Nanzan University).

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし